

奈良女子大学

古代学学術研究センター

平成 27 年度

第 2 回月例研究会

日時：2015 年 6 月 3 日（水）16：30～

場所：生活環境学部会議室（生環系 A 棟 1 階）

内容：東大寺・僧形八幡神像の再検討

岩田 茂樹（奈良国立博物館／センター特任教授）

奈良・東大寺の鎮守八幡宮の神体であった国宝・木造僧形八幡神坐像は、像内銘により仏師快慶が建仁元年（1201）に制作したことがわかる。したがって本像は、治承四年（1180）の南都焼討による東大寺焼亡後の復興期の作であるが、その造立には複雑な経緯があったとみられ、いくつかの謎がのこされている。最大の謎は、本像の像内銘には僧俗多数の結縁者の名があるにもかかわらず、諸種の文献から造立を主宰したと判断される東大寺大勧進俊乗房重源の名が見あたらないことである。また江戸時代前～中期の能書家近衛家熙の筆になる「予楽院臨書手鑑」には、本像台座銘の写しとみられる文が収録され、これに建久八年の年紀と重源の名が認められるが、本像の台座には現在このような銘記は存在しない。

本発表では、作品そのものに残された痕跡を手がかりに、文献を再度読みこむことを通じて、これらの謎の解明をめざす。結果として、本像台座にはかつて六角框が付属したと思われること、また本像には像内納入品が存在し、そこに重源に係わる銘記が存した可能性のあることを指摘する。

ご自由にご参加下さい

問合せ先：奈良女子大学古代学学術研究センター
〒630-8506 奈良市北魚屋東町
奈良女子大学コラボレーションセンター205号室
Phone & FAX. 0742-20-3779